

令和2年度事業報告及び 歳入歳出決算の概要

血液事業特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 令和2年度の主な取り組み

(1) コロナ禍における必要血液量の
確保対策

(2) 供給部門における体制・業務の
見直し



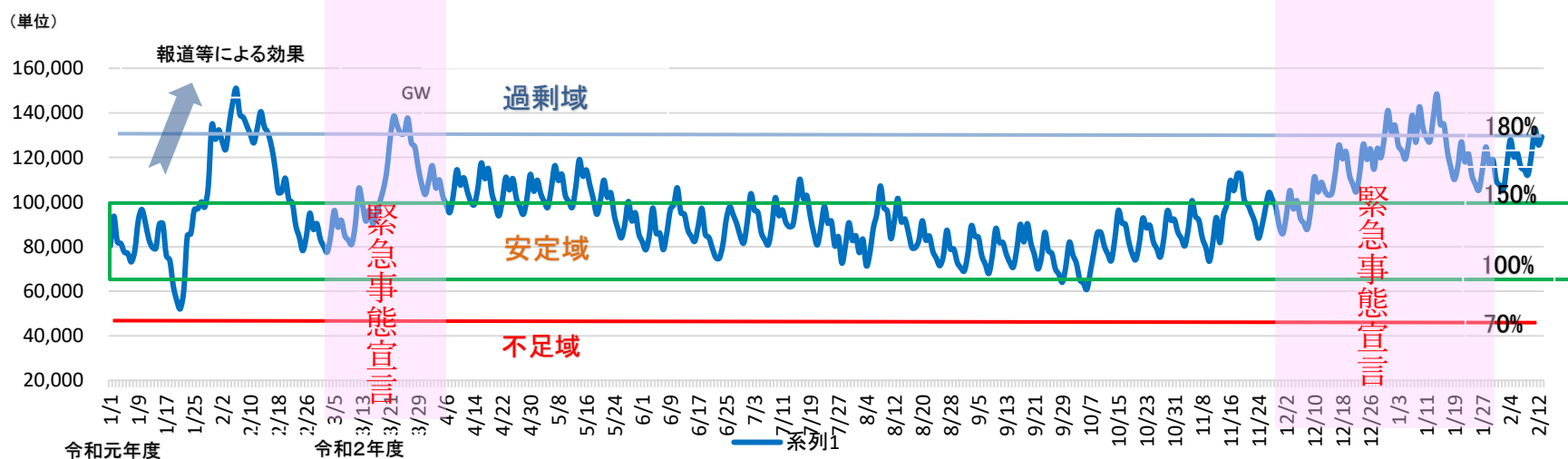
(1) コロナ禍における必要血液量の確保対策

施策の概要

ア 「『新しい生活様式』に基づく献血受入及び医療機関訪問時等の対応ガイドライン」の策定



- 献血会場等における感染予防の徹底や、ホームページや報道機関を通じた献血協力の呼びかけにより、年間を通して、必要血液量を安定的に確保



赤血球製剤の在庫量の推移(令和2年2月16日～令和3年3月31日)

コロナ禍においても、
血液事業を支えていただいた
国民の皆様に、
心から感謝申し上げます。

イ 事業環境の変化を踏まえた献血推進方策の確立

- ・ 在宅勤務やオンライン授業を前提とした献血受入計画の策定
- ・ 都市部における献血ルームを中心とした献血受入体制の充実

☑ 複数団体を組み合わせた献血バス(移動採血)の稼働



☑ 献血者の居住地周辺の献血会場への誘導



献血バス

中止会場の献血予定者や、
在宅勤務中の献血者を中心に誘導



献血ルーム



神社間の繋がりにより広まった
「神社 de 献血」プロジェクトの様子
(品川区居木(いるぎ)神社)

- ・ 在宅勤務やオンライン授業に対応する方にも
献血協力いただけるよう、地域に根差した
新たな献血会場を設けた

ウ 若年層を中心とした献血の普及・啓発

- 献血つながりプロジェクト「みんなの献血」の展開(通年)

【プロジェクトの主対象】

10～30代の若年層

献血つながりプロジェクト
みんなの献血

【プロジェクトの狙い】

- ・18歳・19歳の初回献血者の増加、2回目の再来促進
- ・20代・30代の献血経験者の再来促進



- 新しい生活様式に配慮した
オンライン形式の献血セミナーを開催
- コロナ禍におけるオンライン授業の普及により、
高等学校・大学等における献血会場の中止が相次ぎ、
若年層の献血者数は前年度に比して減少



参考

10代献血者数 20.3万人(前年度比▲6.2万人)
20代献血者数 70.5万人(前年度比▲2.4万人)

エ 献血予約制の推進

- 献血WEB会員サービス「ラブラッド」の活用
- 献血者の属性（性別、年齢、協力頻度等）に応じた協力依頼方法の確立



- 献血Web会員サービス「ラブラッド」の登録会員の獲得のほか、「密」の発生を防ぐ観点からも献血協力の事前予約を推進

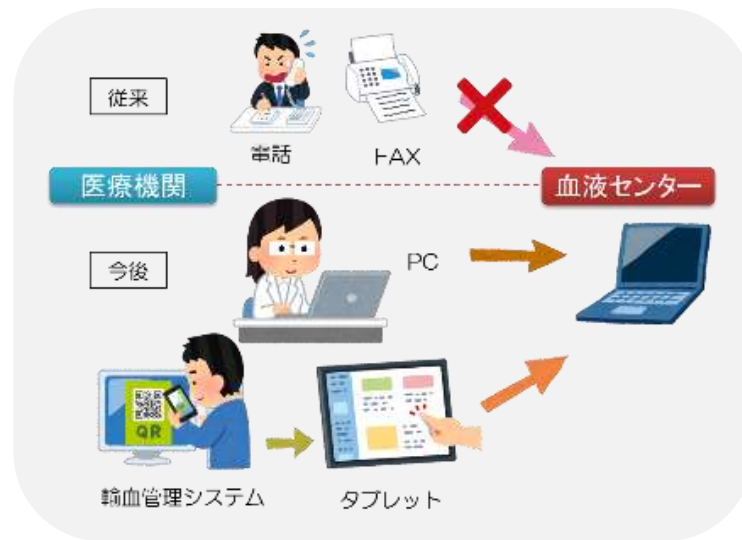
	令和元年度終了時 (令和2年3月)	令和2年度終了時 (令和3年3月)	増減
ラブラッド会員数	約200万人	約247万人	約47万人増
全献血者に占める予約率	21.1%	32.3%	11.2ポイント増
予約率(血小板成分献血)	40.5%	73.0%	32.5ポイント増
予約率(血漿成分献血)	31.9%	67.9%	36ポイント増
予約率(全血献血)	1.9%	13.8%	11.9ポイント増

(2) 供給部門における体制・業務の見直し

施策の概要

ア 新たな血液製剤発注システムの導入と推進

- 令和2年11月、医療機関の意見を反映させた新システムの導入
- 新システムの使用推進によるWEB発注への転換



【新たな血液製剤発注システム導入前後のWEB発注比率】

	システム導入前 (令和2年10月)		システム導入後 (令和3年3月)
発注システムによるweb発注比率	9.8%	増加	22.7%
電話・FAXによる発注比率	90.2%	減少	77.3%

イ 血液製剤の定時配送体制の確立

- 輸血医療の実態を踏まえた配送体制への見直し
- 医療機関に対する定時配送への協力依頼



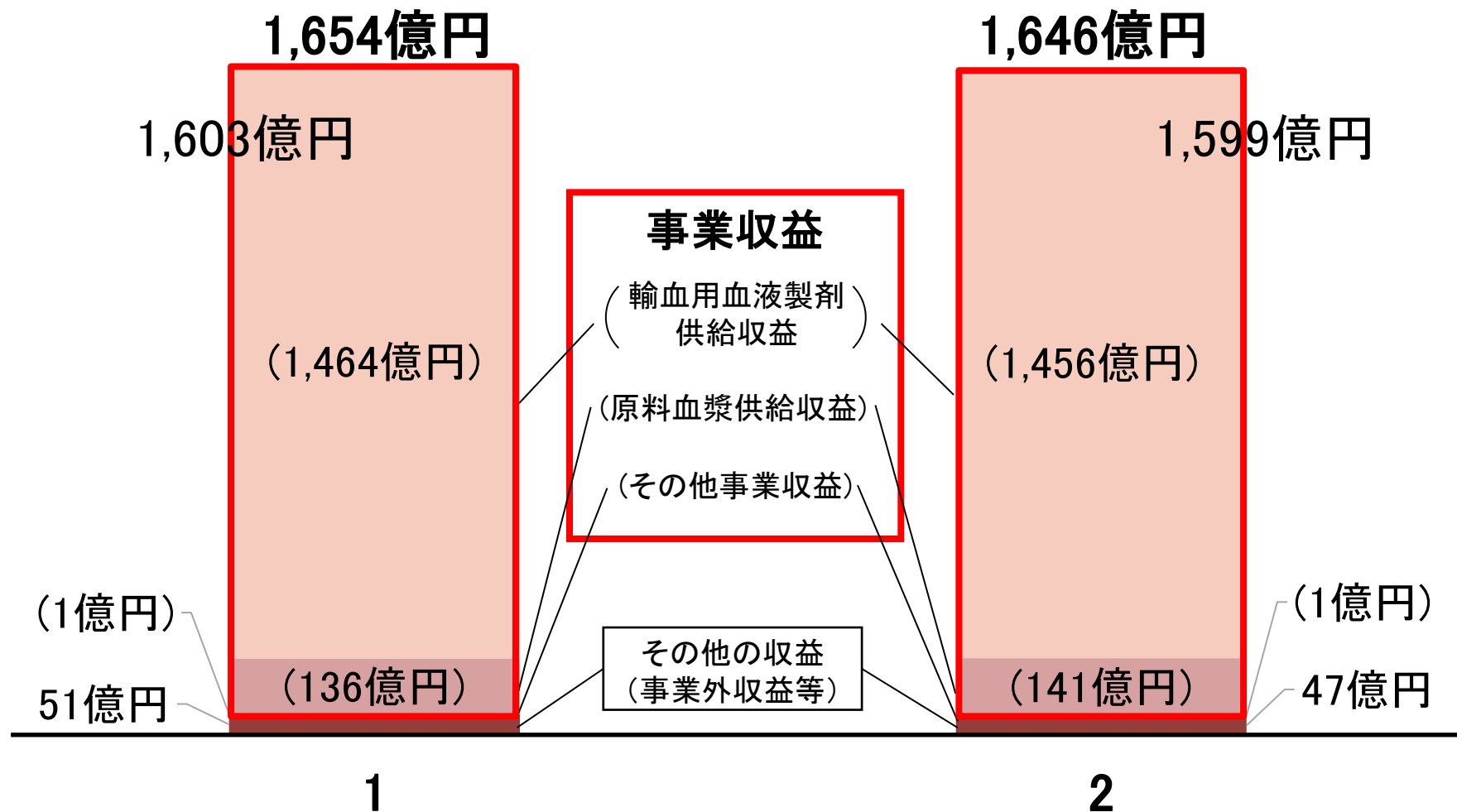
【形態別の配送割合】

形態	定義	令和元年度 (令和元年度第4四半期)		令和2年度 (令和2年度第4四半期)
定時配送	定時出発の配送便による計画的な配送	68.1%	増加 →	73.9%
随時配送	定時配送以外の不定期な配送	28.3%	減少 →	22.8%
緊急配送	医療機関からの緊急配送の要請に基づく配送	3.6%	減少 →	3.3%

2. 歳入歳出決算のあらまし

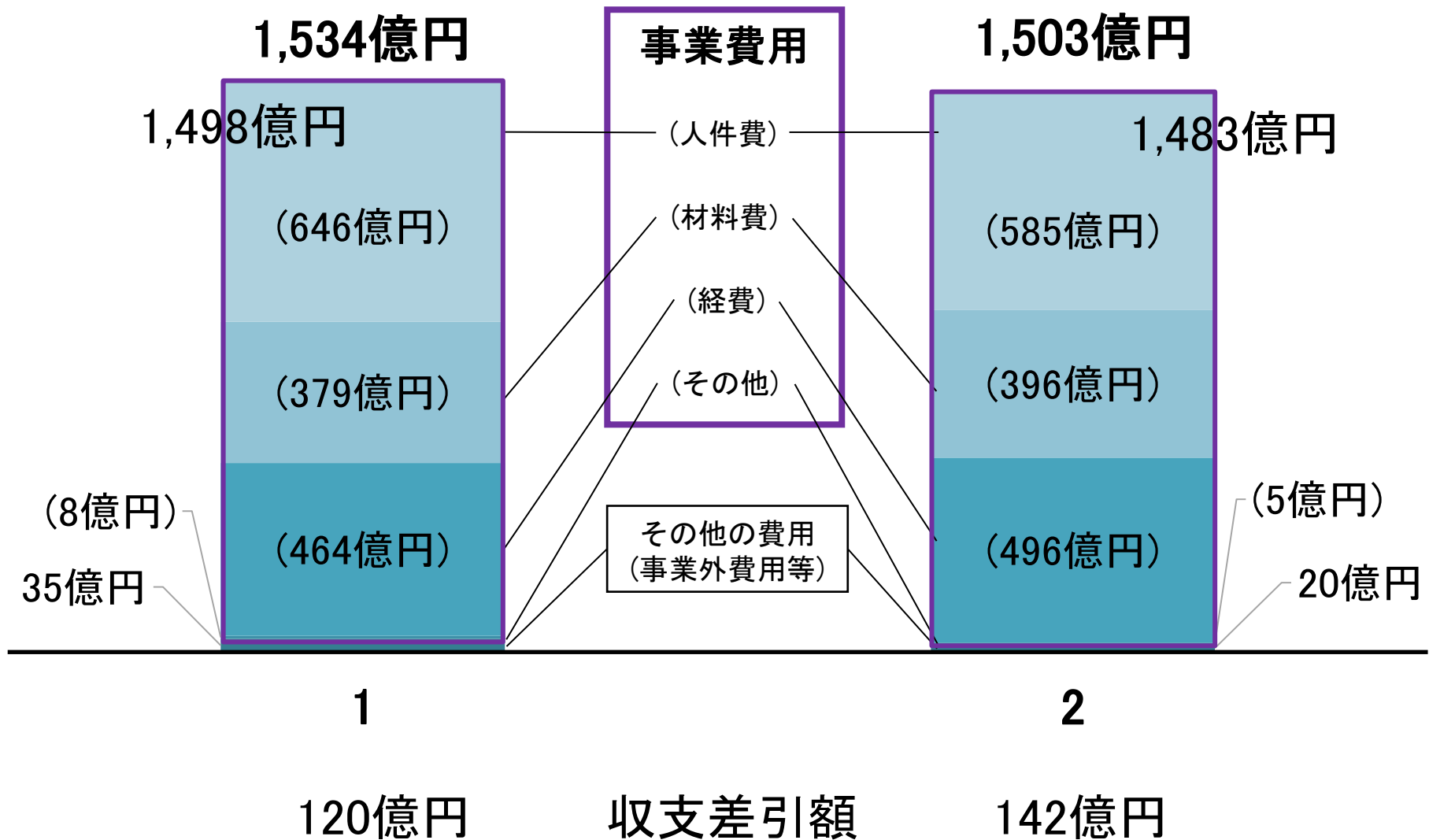
(1) 収益的収入

※1億円未満切捨て



(2) 収益的支出

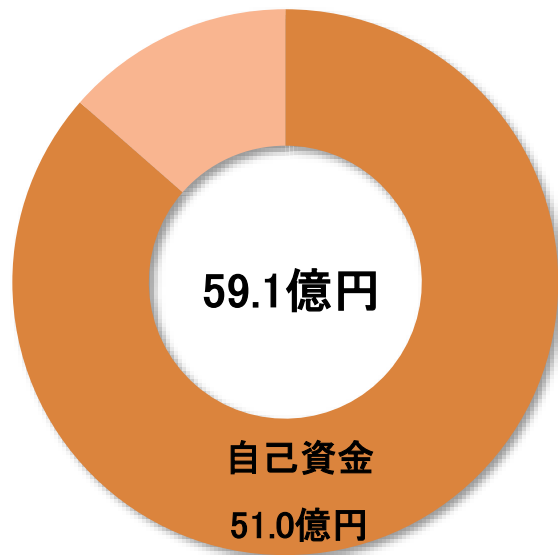
※1億円未満切捨て



(3) 資本的収支

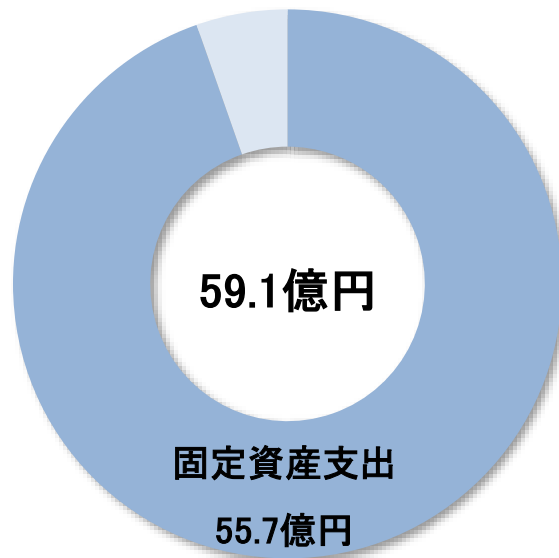
【収入】

補助金等収入
8.0億円



【支出】

借入金等償還
3.3億円



※0.1億円未満切捨て

広島センター福山出張所



資本的支出の内訳

内 容	金 額
土地の購入	0.5億円
血液センターの施設整備等	13.0億円
成分採血装置、血液保管庫等の整備	18.7億円
移動採血車、献血運搬車、広報車等	15.2億円
ソフトウェア等（無形固定資産）	8.0億円
借入金等の償還	3.3億円
合 計	59.1億円

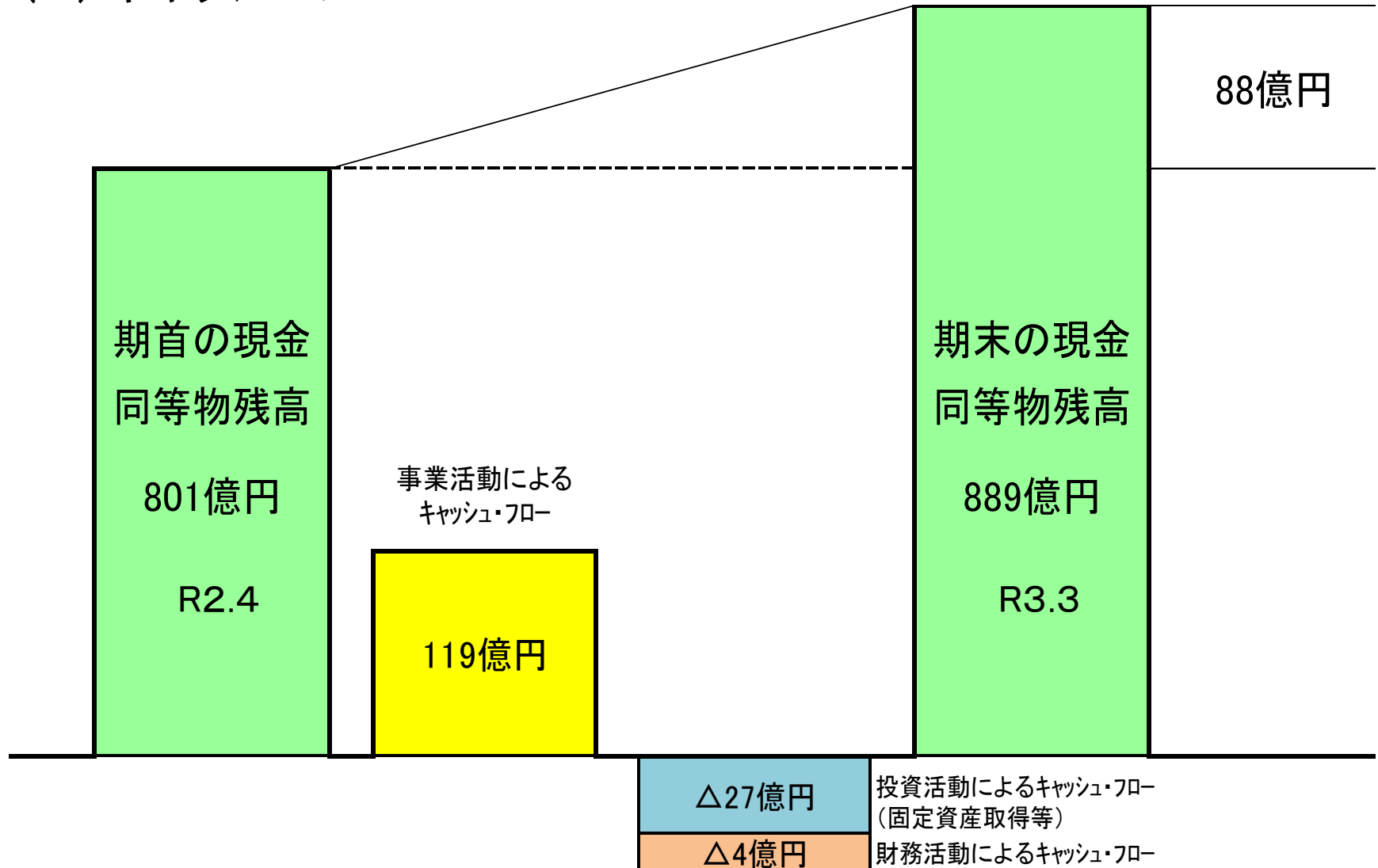
血液センターの施設整備等内訳

施設名	R2年度支出額	総工費
広島センター福山出張所	2.8億円	2.9億円
北海道センター旭川事業所	4.6億円	13.7億円
その他建物設備等更新	5.7億円	
合 計	13.1億円	

3. 経営状況

※1億円未満切捨て

(1) キャッシュフロー



(2) 令和元年度収支との比較

収益の減少

△4.0億円

ア 赤血球製剤の収益増加 (4.1万本減少)	4.3億円
イ 血漿製剤の収益減少 (4.6万本減少)	△1.5億円
ウ 血小板製剤の収益減少 (25.8万本減少)	△11.1億円
エ 原料血漿の収益増加 (2.0万L増加)	4.3億円

費用の減少

△14.9億円

ア 人件費	△61.1億円
・退職給付債務の減少による費用減少(△61.6億円)	
イ 材料費	16.7億円
・原料血漿の確保量増加に伴う材料費の増加(16.7億円)	
ウ 経費	32.3億円
・消費税率の変更による納税分担金の増加(14.9億円)	
【参考】新型コロナウイルス対策費用の増加 (4.6億円)	
エ ・たな卸調整額の減少	△2.8億円

(注)内訳は要因の一部を記載しているため合計額とは一致しないこと

(3) 今後の取組予定及びシステム等の投資予定

ア 新型コロナウイルス感染予防対策

- ・新型コロナウイルス感染予防対策にかかる車両の整備 等

イ 血液製剤の安全性及び品質の向上

- ・細菌スクリーニング及びPAS血小板製剤の導入
- ・赤血球製剤の有効期間の延長 等

ウ 血液センター等施設の更新整備

エ ITシステムの導入

- ・次世代血液事業情報システム構築
- ・ICT技術を活用した検診体制の導入 等

4. 今後の方向性・課題

(「日本赤十字社長期ビジョン」に基づく戦略項目の取り組み)

項 目	目 標	今後の方向性・課題
新型コロナウイルス感染症への対応	- 必要血液量の安定確保 - 血液製剤の安定供給 - 献血者や職員の感染防止対策の徹底	「新しい生活様式」の定着に伴う社会構造の変化を踏まえた新たな献血推進体制の確立
血液製剤の安全性・品質向上に向けた弛まぬ努力	輸血副作用の発生数の減少	- 細菌感染リスク低減策の更なる検討 - PAS血小板製剤の開発
献血協力者への新たなアプローチ	献血者が医療に貢献できていることを実感できている仕組みの構築	- 献血の意義と社会への貢献が実感できるような広報展開 - 献血者のカテゴリに合わせた協力依頼方法の確立
新たな事業展開と持続可能な事業基盤の確立	- 既存事業を補完できる新たな事業の展開 - 医療機関での血液製剤の使用状況に応じた献血依頼・献血受入が可能な体制の構築	- バイオリソース、ビッグデータの活用を通じた国民の健康増進への貢献 - 輸送体制の合理化と利活用
造血幹細胞事業の推進	造血幹細胞移植を希望される方の移植率の増加	事業の一層の普及推進
各国の血液事業の発展への貢献	- 日本赤十字社の支援によって達成できている活動内容・成果の国内外への明示 - 各国の技術レベルを超えた交流支援の継続	- 発展途上国に対する技術支援研修の実施及び体制の確立 - ニーズを反映した海外研修生の受入